

有限会社 高松園製陶所

所在地:愛知県瀬戸市西古瀬戸町 27

事業内容:陶磁器及びチャイナペインティング用品の製造販売

T E L:0561-84-1881



共同開発参加も開発コストが折りあわず撤退

陶磁器及びチャイナペインティング用品の製造販売業。当社の「透かしの技術」が注目され2010年12月開催の瀬戸市イベント「陶のあかり路(みち)」での新製品開発プロジェクトに参加、LED照明器具のカバー開発に携わる。開発コストが見合わないため試作品完成時点にてプロジェクトから撤退した。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

2010年12月に開催された瀬戸市のイベント「第4回陶のあかり路(みち)」では「あかりプロダクト」新商品発表会が企画され産業支援センターせと(事務局:瀬戸市産業課)を調整役とし瀬戸市内事業者4社と大阪芸術大学との連携による「伝統」と「次世代技術」を融合させたLED照明器具開発が実施された。その新製品開発に瀬戸市内事業者として参加しないか、と愛知県産業技術研究所・瀬戸窯業技術センターから依頼があったことが新製品開発に携わることになったきっかけである。依頼があったのは瀬戸地域の中で唯一特徴のあるレース模様の透かし磁器の製造技術を保有していたからである。今回の新製品開発は前述の目的があったためマーケティング活動は行っていない。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

効果とは言えないかもしれないが新しい製品開発の可能性を再認識できたことは大きい。一方で資金を使っての新製品開発は非常に大変であり販売方法の確立にも苦慮した。さらに希望する販売価格とコストの擦り合わせが非常に難しく結果的に新製品開発プロジェクトから撤退する大きな理由ともなった。

業況等について

1990年頃から現在に至る20年ほどは右肩下がりが続いている。この間に特別な事象があったとは認識していないが根底には長引く景気低迷があると考えている。特に自社の取扱製品は大量生産が可能な中国製とは異なり、高品質の製品であるため販売価格が高くなる傾向がある。結果景気低迷期には一段と厳しい状況が続いていくことになる。新製品開発に関しては前述のとおり、開発コストとの関係で試作品完成の時点で撤退した。

今後の展望・見通し

LED照明器具のカバー開発からは撤退してしまったが、今後従来の透かし技術を活用し焼き物では不可能であった道具を製造したいと考えている。

メリット・デメリット

新製品開発は新規取引先に加え顧客が増加することが

大きなメリットである。一方で事業参入した業界独自の慣習や仕組みに戸惑うことが多くなることがデメリットと思われる。

異業種参入時のアドバイス

参入業界の慣習や仕組みを理解することが重要。また初期投資に関しても慎重に検討しておく必要はある。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

瀬戸市産学連携等

新製品または新技術開発支援補助金

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

補助金を後からではなく、早い段階でもらえるようにして欲しい。製造業は製品製造には長けているが販売活動については弱い企業も多いと思われる。支援制度として販売先紹介や仲介を行ってくれるような支援があればありがたい。

会社概要

創業:1968年(昭和43年)3月

設立:1991年(平成3年)6月

資本金:800万円

従業員数:7名

URL:<http://www.koshoen.co.jp>